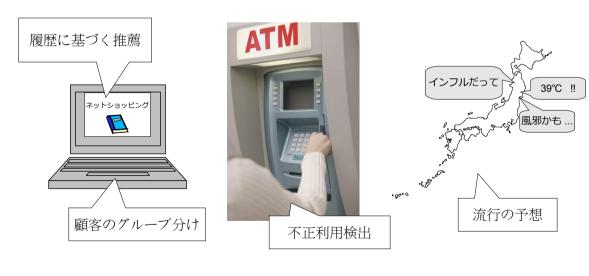
### 1. はじめに

内容

- 1.1 ビッグデータの時代 近年のビッグデータ・機械学習の話題
- 1.2 機械学習とは何か機械学習の全体像
- 1.3 機械学習の分類 教師あり学習、教師なし学習、中間的手法

### 1.1 ビッグデータの時代

- ビッグデータとは
  - ネットワーク、センサー等の発達によって収集され たデータ
  - 大量・多様・スピードが特徴
- ビッグデータは何に使えるか
  - 有用な知見の獲得
  - 省力化
  - 将来の予測



多様な趣味・嗜好に対応

安心・安全を進化

経験や勘を超越

### 1.1 ビッグデータの時代

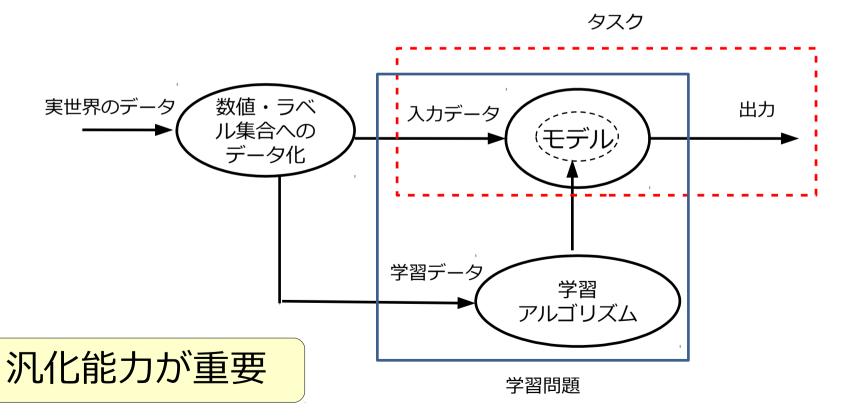
- ビッグデータ処理の問題点
  - データ量が膨大なので人手による情報抽出は不可能
  - 矛盾・曖昧性・近似誤差を含むデータを処理するプ ログラムを記述するのは難しい



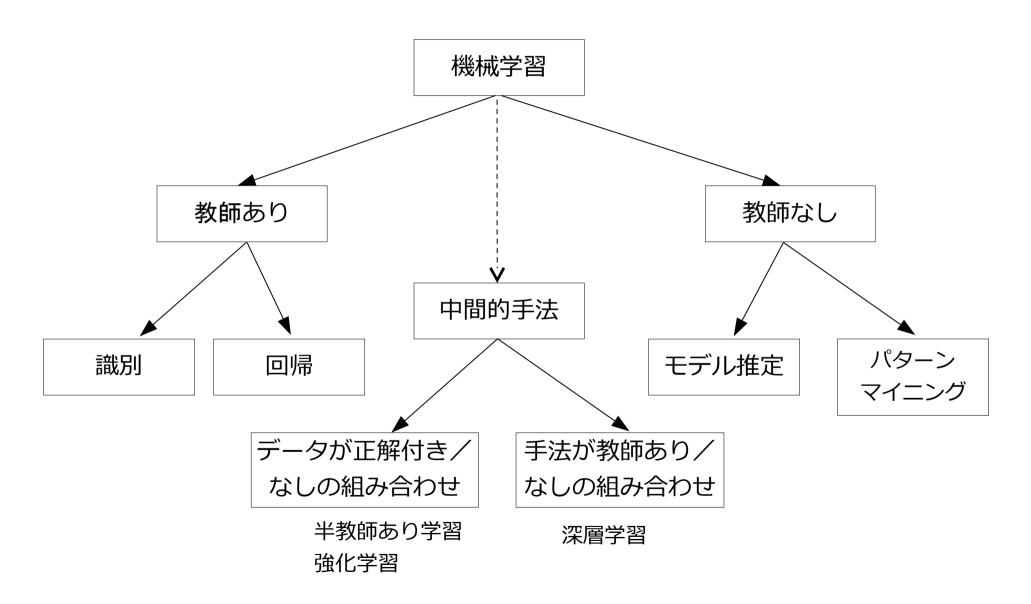
コンピュータによる機械学習が有望

### 1.2 機械学習とは何か

- 機械学習の定義 [Flach 2012]
  - ・機械学習は、適切に**タスク**を遂行する適切な**モデル**を、適切な**特徴**から構築すること

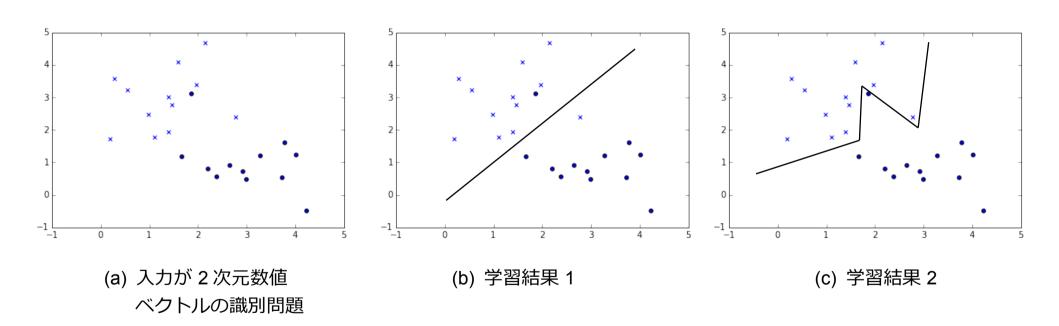


### 1.3 機械学習の分類



### 1.3.1 教師あり学習

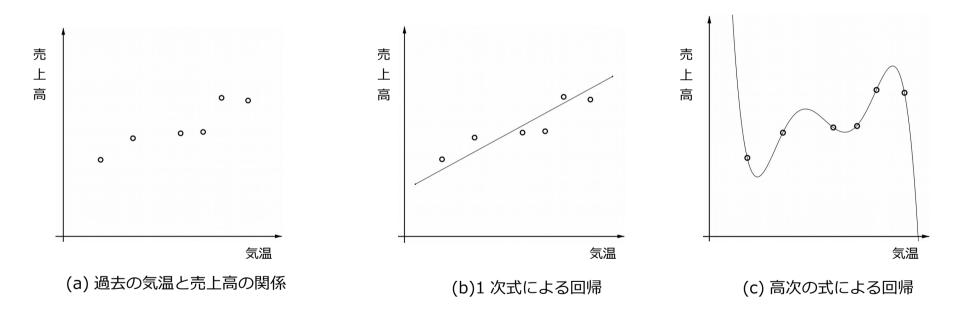
- 識別
  - 学習データに対するエラーが最小となるような特徴空間上の分離面を求める



一般化という視点でどちらが適しているか

### 1.3.1 教師あり学習

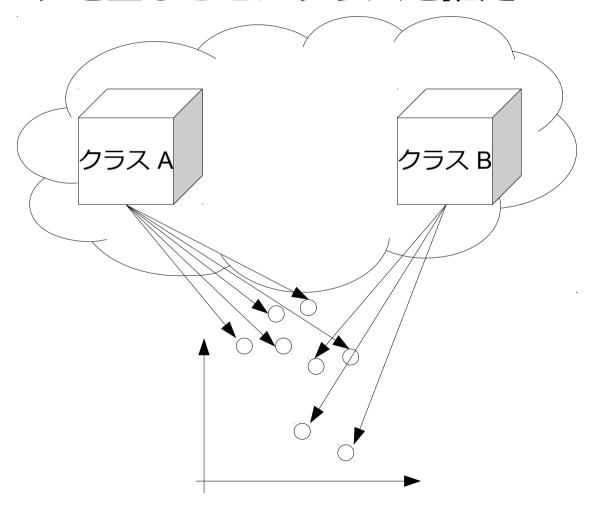
- 回帰
  - 学習データに対するエラーが最小となるような近似 関数を求める



一般化という視点でどちらが適しているか

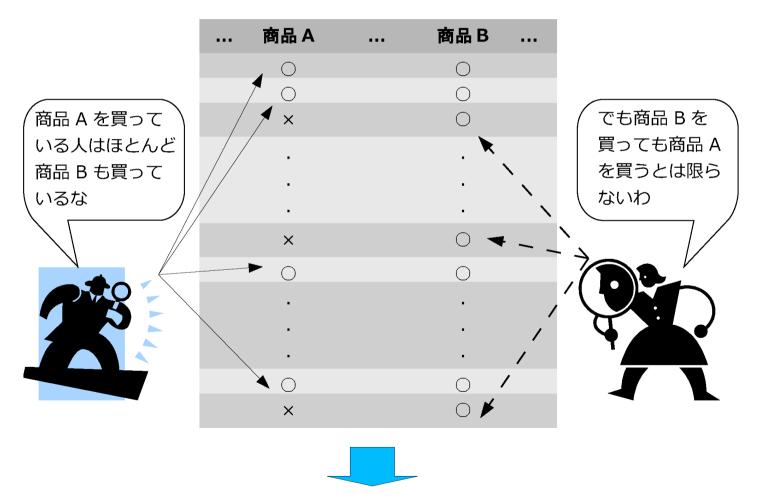
### 1.3.2 教師なし学習

- モデル推定
  - データを生じさせたクラスを推定



### 1.3.2 教師なし学習

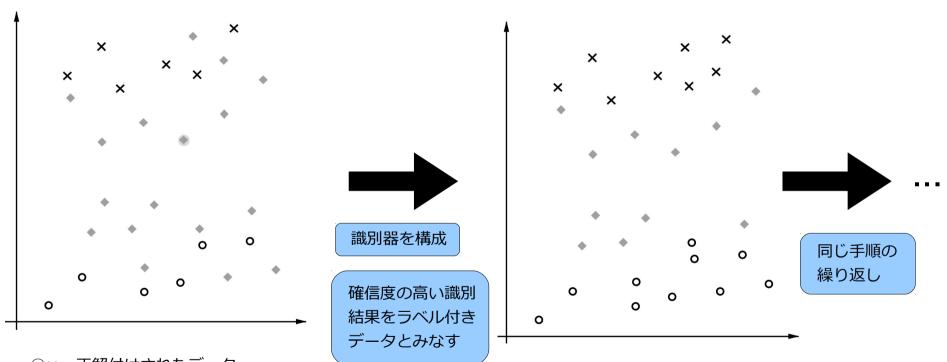
- パターンマイニング
  - 頻出項目や隠れた規則性を発掘



「商品 A を購入」⇒ (ならば)「商品 B を購入」

### 1.3.3 中間的手法

- 半教師あり学習
  - 繰り返しによる学習データの増加

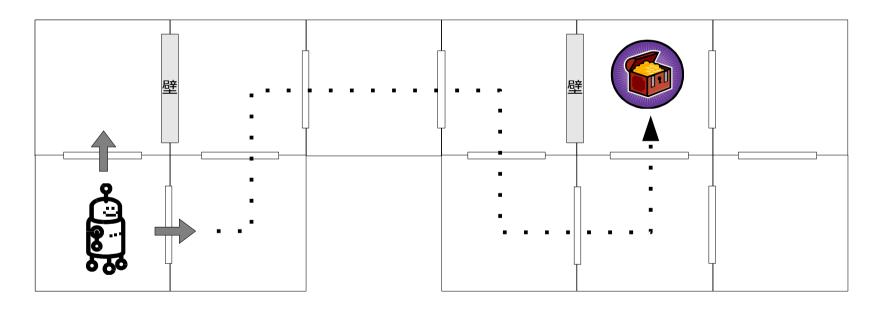


○×: 正解付けされたデータ

◆: 正解付けされていないデータ

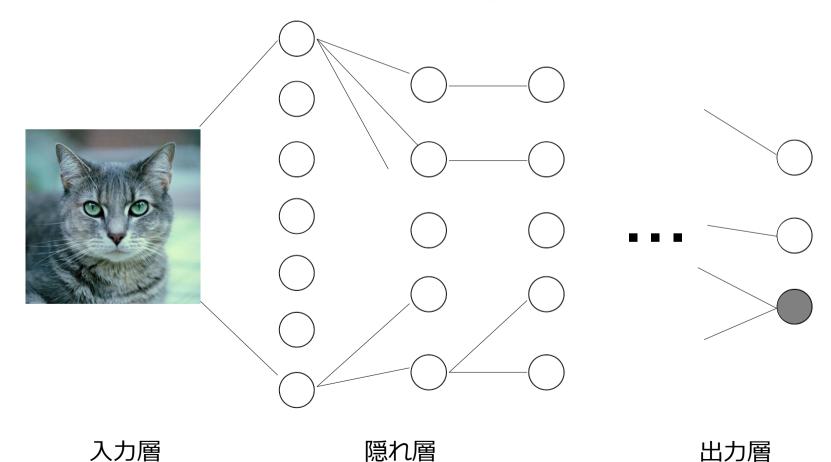
### 1.3.3 中間的手法

- 強化学習
  - 教師信号が、間接的に、ときどき、確率的に与えられる

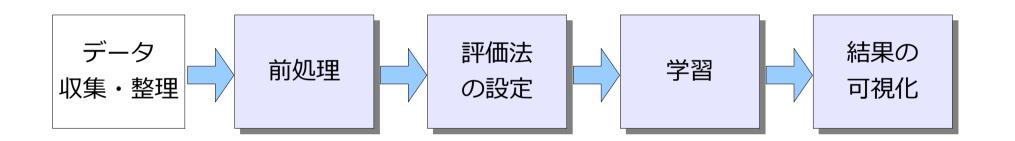


### 1.3.3 中間的手法

- 深層学習
  - 教師なし学習で初期値を設定→表現学習
  - 教師あり学習で識別能力を学習

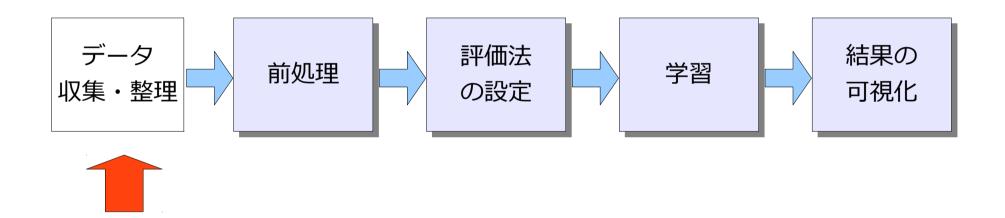


### 2. 機械学習の基本的な手順



: ツールによる支援が可能

### 2. 機械学習の基本的な手順



## 2.1 データ収集・整理

- (勉強用の)機械学習のデータ
  - データマイニングツール Weka に付属

表 2.2 Weka 付属のデータ

データ名	内容	特徴	正解情報
breast-canser	乳癌の再発	ラベル	クラス (2 値)
contact-lenses	コンタクトレンズの推薦	ラベル	クラス (3 値)
cpu	CPU の性能評価	数值	数值
credit-g	融資の審査	混合	クラス (2 値)
diabetes	糖尿病の検査	数值	クラス (2 値)
iris	アヤメの分類	数值	クラス (3 値)
Reuters-Corn	記事分類	テキスト	クラス (2 値)
supermarket	スーパーの購買記録	ラベル	なし
weather.nominal	ゴルフをする条件	ラベル	クラス (2 値)
weather.numeric	ゴルフをする条件	混合	クラス (2 値)

## 2.1 データ収集・整理

• Weka のデータ形式 ARFF フォーマット

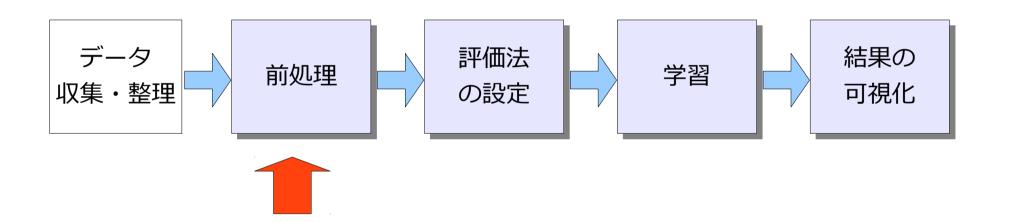
長さ・幅

アヤメの

種類

```
% 1. Title: Iris Plants Database
          @RELATION iris
                             データセット名
          @ATTRIBUTE sepallength
                                  REAL
                                          特徴名と型
萼・花びらの
          @ATTRIBUTE sepalwidth
                                  REAL
          @ATTRIBUTE petallength
                                  REAL
          @ATTRIBUTE petalwidth
                                  REAL
          @ATTRIBUTE class {Iris-setosa, Iris-versicolor, Iris-virginica}
          ATAGE
                                                  これ以降、1行に1事例
          5.1, 3.5, 1.4, 0.2, Iris-setosa
          4.9, 3.0, 1.4, 0.2, Iris-setosa
                                                 (Excel の CSV 形式と同じ)
          7.0, 3.2, 4.7, 1.4, Iris-versicolor
          6.4, 3.2, 4.5, 1.5, Iris-versicolor
          6.3, 3.3, 6.0, 2.5, Iris-virginica
          5.8, 2.7, 5.1, 1.9, Iris-virginica
```

### 2. 機械学習の基本的な手順



### 2.2 前処理

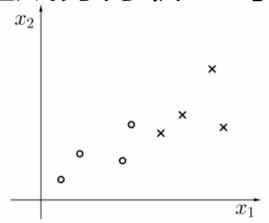
• データの標準化

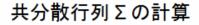
なぜ必要?

- 各次元に対して平均値を引き、標準偏差で割る
- その結果、平均 0 、分散 1 の標準正規分布に従う
- 分析
  - 主成分分析(次元削減)
    - データの散らばりをできるだけ保存する低次元空間へ 写像
    - データの可視化に有効

## 2.2 前処理

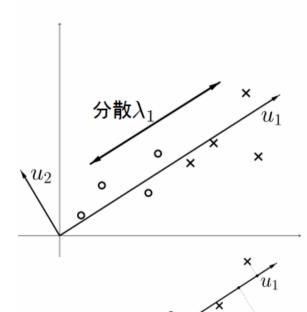
#### • 主成分分析の考え方





 $ar{x_1},ar{x_2}$  : 平均値、N: データ数

$$\Sigma = \frac{1}{N} \begin{pmatrix} \sum (x_1 - \bar{x_1})^2 & \sum (x_1 - \bar{x_1})(x_2 - \bar{x_2}) \\ \sum (x_1 - \bar{x_1})(x_2 - \bar{x_2}) & \sum (x_2 - \bar{x_2})^2 \end{pmatrix}$$



Σは

対角成分は分散、 非対角成分は相関を表す

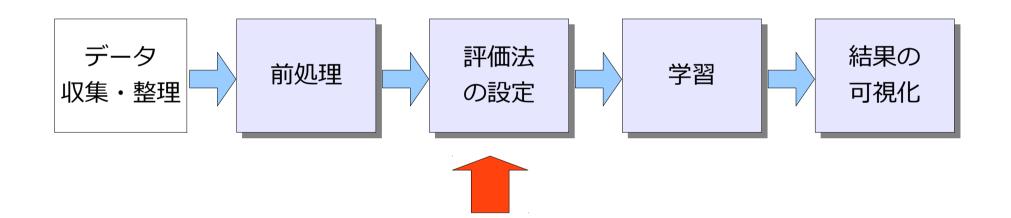
半正値 (→ 固有値が全て 0 以上の実数 ) 対称行列 (→ 固有ベクトルが実数かつ直交 ) であるので

$$\Sigma' = U^T \Sigma U = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$$

↓は対応する固有ベクトルを並べたもの

 $\lambda_1$ に対応する固有ベクトルからなる行列  $\mathbf{U_1}$ で 2 次元データを 1 次元に射影  $u_1=U_1^T\mathbf{x}$ 

### 2. 機械学習の基本的な手順



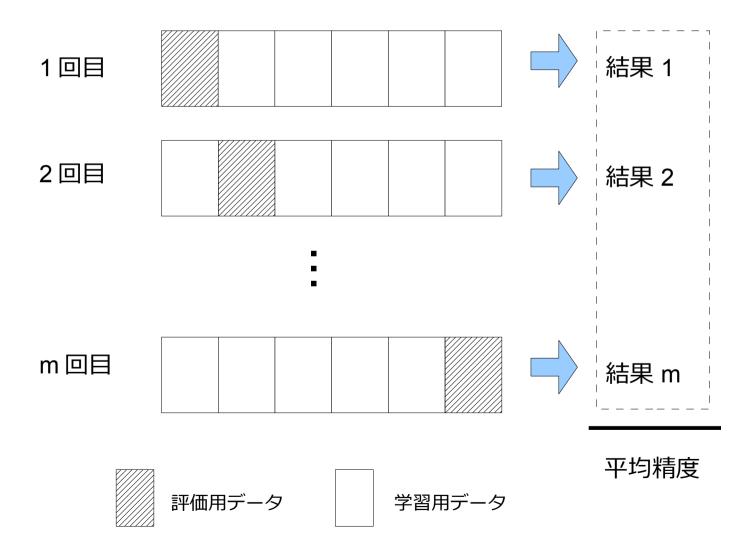
### 2.3 評価基準の設定

- 学習したモデルの評価
  - 学習データに適合しすぎては意味がない
    - ⇒過学習の問題
  - 汎用性の評価が必要
    - ⇒ 未知のデータに対する識別能力
- 分割法
  - データを学習用と評価用に分ける

もったいない

### 2.3 評価基準の設定

### • 交差確認法



### 2.3 評価基準の設定

#### • 混同行列

	予測+	予測一
正解十	true positive(TP)	false negative(FN)
正解一	falsepositive(FP)	true negative(TN)

• 正解率 
$$Accuracy = \frac{TP + TN}{TP + FN + FP + TN}$$

• 精度 
$$Precision = \frac{TP}{TP + FP}$$

• 再現率 
$$Recall = \frac{TP}{TP + FN}$$

• **F**値 
$$F$$
-measure =  $2 \times \frac{Precision \times Recall}{Precision + Recall}$ 

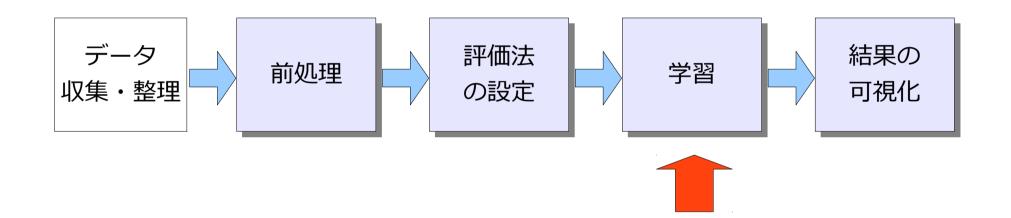
正解の割合 クラスの出現率に 偏りがある場合は不適

正例の判定が 正しい割合

正しく判定された 正例の割合

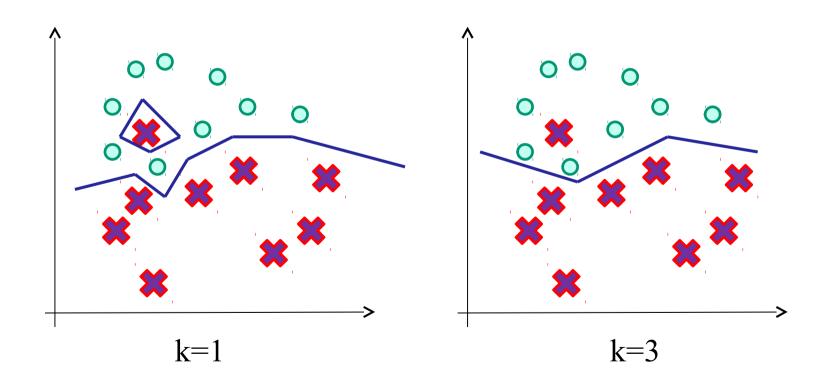
> 精度と再現率の 調和平均

### 2. 機械学習の基本的な手順

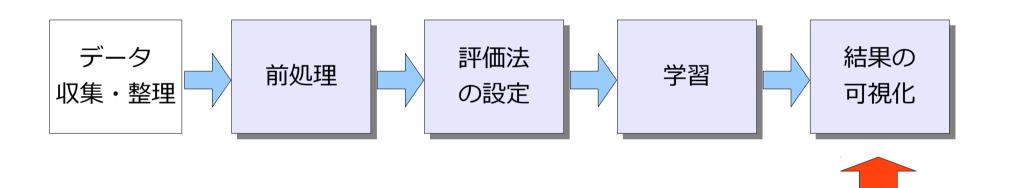


### 2.4 学習

- k-NN 法
  - 入力データと最も近い学習データのクラスに分類する
  - ノイズに強くするためには k- 近傍の多数決を取る



### 2. 機械学習の基本的な手順



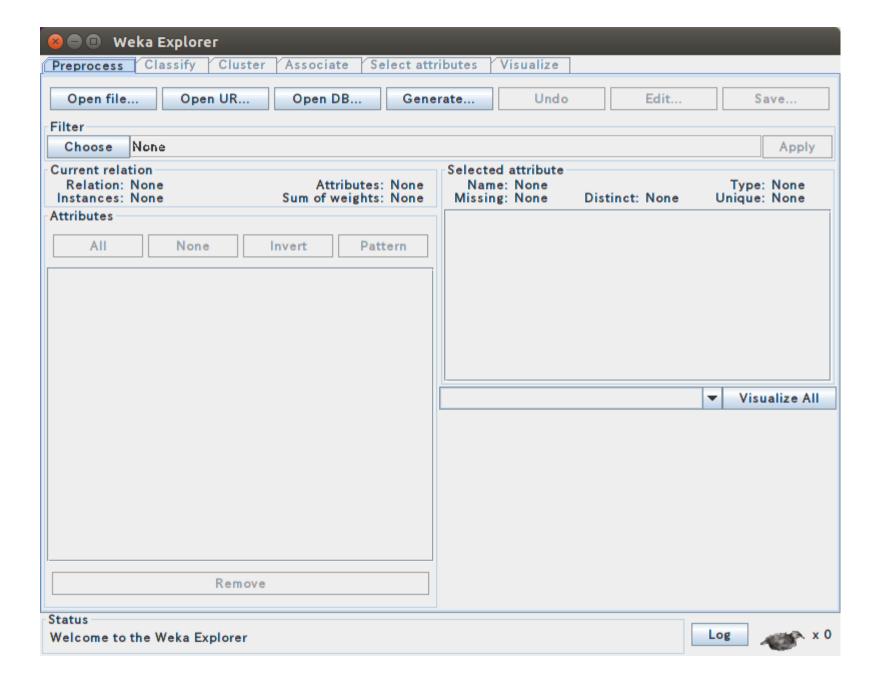
### 2.5 結果の可視化

- 学習したモデル
  - 式、木構造、ネットワークの重み、 etc.
- 性能
  - 正解率、精度、再現率、 F 値
  - ・グラフ
    - パラメータを変えたときの性能の変化
    - 異なるモデルの性能比較

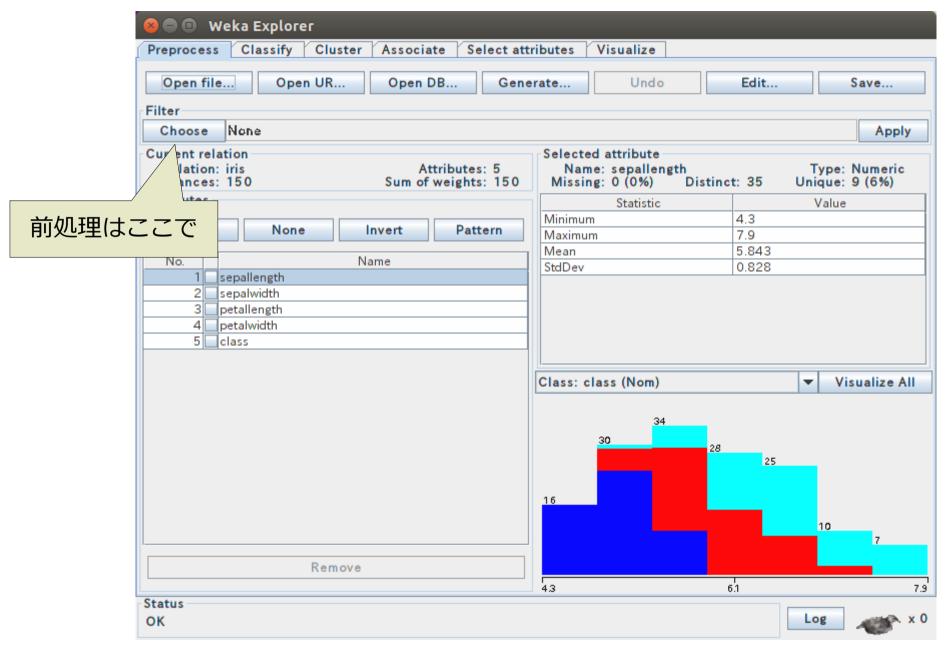
## Weka の起動画面



## エクスプローラー



# 学習データを開く



## データの可視化



#### 学習アルゴリズム を選択

評価方法

を選択

### 学習実験

